



鳥獣被害対策

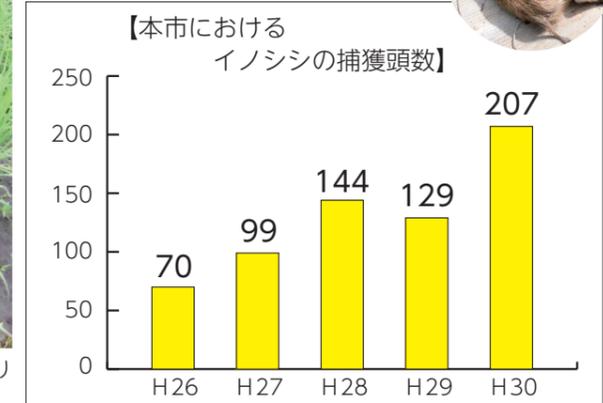
イノシシから農作物を守ろう！

野生生物による農作物被害は増加傾向にあります。特にイノシシの被害が多く、平成30年度は207頭（対前年度比160%）のイノシシが捕獲されました。

大規模な農地だけでなく、家庭菜園での被害も多く発生していることから、農業を営む方はもちろん、家庭菜園を作っている方も取り組める対策を紹介します。



▲イノシシの体についたダニやノミを落とす「泥あび」により被害を受けた水田



対策3 侵入防止柵を設置する

イノシシから作物を守るためには、侵入防止柵の設置が有効です。

市内で最も多く利用されているのは電気柵ですが、正しく張れば効果が高い反面、設置費用が高く、漏電防止のため周囲の草刈りを定期的に行う必要があります。

電気柵以外の方法としては、ワイヤーメッシュ柵や視覚を遮断するトタン板を利用した柵も効果的です。



▲ワイヤーメッシュ柵

More Information

市では、鳥獣の侵入を防ぐ設備の購入経費を助成しています。申請方法など詳しくは、農林整備課または各庁舎事業課にお問い合わせください。

- 対象者 市内に住所を有する農林作物の生産者
 - 対象設備 電気柵や金網、トタン板などの侵入防止設備
 - 補助対象額 設備の設置に要する経費の合計が3万円以上であるもの
 - 補助額 経費の3分の1（上限5万円）
- ☎農林整備課（表郷庁舎に移転しました）内2229／各庁舎事業課 表郷☎④4785 大信☎④3973 東☎④2115



電気柵設置のポイント

- ◇電気柵周辺の草刈りをやっているか？
 - ◇田畑の周りに、生ごみや収穫残さを捨てていないか？
 - ◇^{がいし}碍子がすべて田畑の外側を向いているか？
 - ◇ワイヤーは地面から20cm、40cmの高さを保っているか？
 - ◇水路などの横断部分に隙間がないか？（右参照）
- ※碍子：支柱に固定し、ワイヤーを通す部品。

CHECK!



イノシシを知ることが被害対策の第一歩



産業部農林整備課 田崎 武浩 参事兼課長

イノシシは基本的に警戒心の強い生き物なので、見慣れないものを避ける傾向があります。一方、学習能力が高く、侵入防止柵などがあっても安全であることや、エサ場の存在を認識すると、頻繁に出没するようになります。

また、繁殖能力が高く、1回に平均4～5頭出産することなどが

ら、年々個体数が増加しているものと考えられます。

市では「白河市鳥獣被害対策実施隊」などと連携を強化し、さらなる捕獲に努めてまいります。

市民の皆さんも、農作物の被害を軽減するため、今回紹介した防止策に取り組んでみてください。

対策1 隠れ場所をなくす

田畑近くのヤブは格好の隠れ場所となり、そのままにしておくと「人慣れ」が進みます。地域ぐるみで草刈りなどの管理を行い、見通しの良い場所に変え、イノシシを近付けさせない環境を作りましょう。



対策2 エサ場をなくす

イノシシは、一日のうち多くの時間をかけてエサを探します。農作物はもちろん、身の回りの思わぬもの（生ごみなど）がイノシシを引き寄せるエサとなります。イノシシに、そこがエサ場だと認識させないようにすることが大切です。

イノシシが人里で、栄養価が高いものを一度にたくさん食べられる場所を見つけると、同じ場所に頻繁に出没し、被害を拡大させるおそれがあります。

イノシシにエサ場だと認識させないためには？

- ◇野菜クズや生ごみなどを田畑に捨てない。
- ◇未収穫の作物を放置しない。
- ◇収穫後の田んぼに落ち穂や2番穂を残さない。

